

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870800145
法人名	社会福祉法人 愛美会
事業所名	グループホーム 虹の里
所在地	愛媛県四国中央市上分町乙8番地73
自己評価作成日	平成24年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 8月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・複合施設の利点を活かし、年間を通して様々な行事を提供、また、多くのボランティアの方々とふれあい語らう機会がある。</li> <li>・緑豊かな場所に立地している事で、四季の移り変わりや自然を楽しむ事が出来る。</li> <li>・お一人おひとりの個性と人格を大切に、思いやりのある語らいや寄り添うケアを心掛けている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体法人は長年にわたり介護と医療の両面から地域に貢献してきた実績があり、地域住民からの信頼も厚い。1ユニットの落ち着いた事業所であるが、大型複合施設の中にある利点を活かし、利用者に多機能なサービスを提供している。併設のケアハウスや老人保健施設、隣接の特別養護老人ホームの行事等に参加して、多くの利用者や職員と交流があり、利用者の生活に活気を与えている。職員全員が常に向上心を忘れず、「グループホームだからできること」「グループホームにしかできないこと」を意識し、より質の高いサービスの提供ができるよう取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**

—サービス向上への3ステップ—

<b>事業所名</b>	グループホーム虹の里
<b>(ユニット名)</b>	
<b>記入者(管理者)</b>	
<b>氏名</b>	森田 春美
<b>評価完了日</b>	平成 24年 7月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 目につく所に理念を掲げ、業務の指針としている。また、理念を具体化する目標を掲げ、職員だけでなく利用者やご家族等の目にもつくよう設置し、日々確認しながら実践に繋げている。	
			(外部評価) 事業所の理念は開設時から変わっていないが、状況に合わせて目標を掲げ、職員全員で日々の業務に取り組んでいる。利用者が主役であることを目標に、持てる力を活かしてできることを一緒に楽しくゆっくりと支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 法人全体でおこなう行事祭などでは、地域の方々にご参加いただき親睦と連携を深めている。また、地域の行事等にも出来る限り出向いて行くよう心掛けているが十分とはいえない。今後は、地元に着した活動に利用者と共に参加出来るよう努めてゆきたい。	
			(外部評価) 母体法人は長年地域に根ざした活動を行っており、毎年の「盆踊り大会」「愛美会祭り」は地域の行事として定着し、多くの地域住民の参加と協力を得ている。行事には利用者と一緒に参加し、地域の多くの人と交流がある。法人が主催する「四国中央市介護予防教室事業」等の取り組みは地域貢献として評価できる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議の場において、介護保険制度および認知症ケアについての説明を行い理解を得ながら支援に努めている。地元(上分町)でおこなわれた徘徊模擬訓練には徘徊役・搜索側としても参加し、できる事から地域貢献に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 日常生活や行事内容をスライドを通して解りやすく紹介し、ホームの取り組みを理解していただいている。また、議題内容によっては、専門的な立場から様々な意見やアドバイスをいただきサービスに活かしている。しかし、幅広い意見を知る為には委員の方の拡大を図る必要がある。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議でサービス評価結果を報告し意見交換したり、地区の徘徊模擬訓練の参加を呼びかけるなど、議題を工夫して地域から多くの参加と協力を得ている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 毎月、介護相談員さんが来訪してくださり、利用者の声に耳を傾けてくださっている。また、2ヵ月に1回、市の方が運営推進会議に委員として参加して下さっている。市のグループホーム交流会では、必要に応じて市の担当者も参加して下さる事になっている。</p> <p>(外部評価) 市担当者に運営推進会議に参加してもらい情報交換している。毎月、介護相談員の受け入れを行い、意見やアドバイスをサービスの質の向上に活かしている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 開設当初より身体拘束はしない方針であり、職員は研修や勉強会にて理解を深めている。玄関の施錠においては、日中は開錠し夕食後に施錠する事としている。</p> <p>(外部評価) 職員の自己点検のために「高齢者虐待防止」に関するアンケート調査をしたり、地区の徘徊模擬訓練に参加したり、徘徊対応について運営推進会議で話し合うなど、身体拘束をしないケアの正しい理解と実践に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) なるべく研修に参加しホーム内にて報告、勉強する機会を設けている。日々の業務の中では、職員がキツイ声かけや対応になっていないか職員同士が意識し合う事により虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在のところ制度を活用することはないが、職員全員が制度を理解できるよう研修等に参加する機会を設けていく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時には契約書や重要事項説明書に沿って説明している。また、退去時にはその理由を説明し、合わせて今後の対応をご家族と十分協議し理解・承諾を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) その時々のご家族さんの意見や要望に耳を傾け、また、苦情処理箱の設置により、直接伺うことの出来ない意見なども収集できるようにしている。利用者さんにおいては、職員からの問いかけに加え介護相談員さんの問いかけ等にて集めた意見を共有し運営に活かしている。 (外部評価) 利用者や家族が気軽に意見や要望を言える関係が築けている。家族会を年2回、食事会と合わせて開催し、家族同士の和やかな会話の中から意見や要望を見出すこともある。出され意見等は運営に反映させている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の職員会には、施設長も参加しスタッフからの意見を聞く場をつくってくださる。その他にも日々の申し送りで出た意見については、実践できるものは直ぐ取り入れるよう努めている。  (外部評価) 管理者と職員間に信頼関係ができており、朝礼やミーティングなどで出された意見をすいあげ、毎月の職員会で皆で気軽に話し合える体制が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 施設長は、度々ホームを訪れてくれ職員や利用者との関係を大切にしてください。また、個々の職員の努力が実績として残るように年2回の人事考課を通して給与に反映、意欲の向上に繋がるよう組織的に取り組んでくださっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 経験の段階に応じた研修に参加できるよう年間計画を立て実施している。学んだ事は、職員会などで発表する場を設け、実践することで知識・技術の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 様々な研修会を通して交流を図れるように努めており、市のグループホーム交流会にも参加し困難事例や成功事例、運営において意見交換をおこないネットワークづくりに努めている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談では、ご本人・ご家族より生活状況をお聞きし入居後も安心して過ごして頂けるよう関わりを密にした対応を心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族が困っている事を十分に傾聴し、安心して利用して頂けるよう努めている。利用後も状況報告において、利用者と職員の関わりを説明しご家族との信頼関係を深めるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人やご家族の希望を聞き、どのような支援を求めているのかを見極めながら様々なサービスの選択肢を一緒に考えるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は、利用者が人生の先輩として学ぶ事も多くお互いに支え合う関係をつくっている。日々の生活の中では一緒に考えたり・教えてもらう場面も多く感謝の気持ちを伝えるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には現在の状況を報告し、協力して欲しいことはお願いし共に利用者支援している。また、行事等には呼びかけを行ない参加して頂きながら、共に楽しく過ごせる時間を設けられるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ホームに入所する事により、家族さんや子供さん以外の人との関係は薄れている。馴染みの場所においては、家族さんの協力もあり墓参りや姉妹宅への訪問や近所の方の訪問もあるが、一部の利用者のみで大半の利用者は実現には至っていない。  (外部評価) 近所の方の訪問や家族との外出や外泊、併設のケアハウスや隣接の特養施設の利用者の訪問など、これまでの馴染みの人や場所の関係を継続できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を十分に把握し、共に楽しく過ごせるよう橋渡しをしながらフロア内の環境づくりにも気をつけている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 心身の状態の変化により他の施設に入居された時は、可能な限り利用者と共に面会に行き様子も伺っている。また、日頃の会話から要望等を実現できるよう実施している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者さんとの一緒にゆったり過ごす時間等を利用し、思いや希望を聞いている。また、思いをスムーズに語れないとか困難を生ずる利用者の場合は日頃の生活振りやご家族さんの意見などを参考にし、把握に努めている。	
			(外部評価) 入居後の生活の様子や利用者同士、職員との会話などから得られた情報や職員の気づきを整理して、利用者一人ひとりの思いや意向を職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時には、これまでの生活歴をお聞きし、入居後も日常の会話の中からご本人やご家族からお聞きした情報を共有し把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝の申し送りや夕方の記録の時間において、利用者の状態と気づき、ケアの工夫などについて伝達し合ったり、振り返りなども行い把握に努めている。いつもと違う変化については、気づきノートに記録しひと目でわかるようにしている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) まずは、利用者およびご家族の意向を聞き取り、職員全員の意見と必要に応じては主治医の意見も参考にし介護計画を作成している。6ヶ月毎の見直しの際にはご家族に確認をいただき要望・意見等をお聞きしている。モニタリングにおいては、毎月おこない次へと繋げている。  (外部評価) 職員は一人ひとりの介護計画を常に意識しながら、利用者に関わっている。介護計画の実施表をもとに毎月皆で話し合い、利用者がより良く暮らせる生きがいとなるような事を見つけ、その人にあった支援となるよう介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人記録表や申し送りノートにその日の様子や気づいた事を記録し共有している。また、ケアプランに沿ったケア目標を決め毎日評価している。プラン更新の際には見直しがスムーズに出来るようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 複合施設の中にあるグループホームとして、各施設の機能を活用しながら個々のニーズに対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 併設施設の支援を受けるとともに、地域ボランティアの受け入れ・教育機関とも協働し支援をおこなっている。また、運営推進委員である民生委員さんにも様々な助言をいただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 受診の際はできる限りご家族にも付き添いをお願い し、ご家族としての要望も伝えられるよう支援してい る。また、状況に応じてご本人やご家族が希望される 医師による医療が受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者や家族の希望にそったかかりつけ医の受診がで きるよう支援している。利用者の多くが法人の医療機 関の院長としている。院長は長年地域医療に貢献し、 利用者が安心して生活できるよう医療の充実に努めて いる。他の医療機関の受診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎日のバイタルチェックにより健康状態を把握し、異 常のある時は、併設施設の看護職員に相談及び指示を 仰ぎ医療機関等へ受診している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院中は病状の把握が出来るように見舞いやご家族へ の連絡を密に行ない、病状が安定すれば退院後の援助 について病院関係者との情報交換や相談に努めてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時にホームの方針として指針をご本人及びご家族 に説明し、同意を得るようにしている。また、重度化 したときは、段階ごとにご家族や医療機関・ケア関係 者等と話し合いを重ねながら検討している。	
			(外部評価) 緊急時は併設の施設の看護師が対応するようになって いる。法人の緊急車輛があり、24時間母体の医療機 関が受け入れるように体制が整備されており、事業所 での看取りの経験は少ない。	利用者や家族の意向を踏まえて、看取りの指針の再確 認など終末期の支援方法を関係者で話し合い、チーム で取り組むことを期待したい。終末期の対応について 職員研修を定期的に行うことが望ましい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変や事故発生時の対応においては、マニュアルを作成し全職員が把握しているが、今後は、救命講習も受け実践力を身に付けてゆきたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の併設施設での火災訓練を実施することにより、避難経や消火器具の扱いは心得ているが充分とはいえない。より具体的な方法と定期的な実施にて緊急に備えておきたい。  (外部評価) 大型施設の中にありスプリンクラーや緊急通報装置、AED等の設備は整備されている。全体の職員数も多く避難訓練は合同で行い、災害に対して協力体制が築かれている。	合同の火災訓練の後で、事業所独自の気づきや改善点についてより一層踏み込んだ話し合いが行われることを期待したい。火災や地震に備えた避難経路の整備に取り組むことを希望する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの個性と人格を大切にし、思いやりのある語らいに努めている。また、狭い空間での日常の中でもあるのでプライバシーには事のほか配慮している。  (外部評価) 1ユニットの事業所で利用者の入居年数も長く、職員は家族のような雰囲気ですべて接しており、また一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した声かけや対応を実践している。	利用者への対応の質が今後も継続できるよう、毎年、定期的に職員が自己評価するなど工夫した取り組みに期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 意思決定できない方には希望をお聞きし、意思表示が困難な方においては表情や状態から読み取り、いくつかの選択肢を用意し出来る限りご本人が決定できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り利用者の方のペースに合わせて心にかけている。利用者の個々の思いをお聞きし希望に添えるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自己管理している利用者はの好きなものを着てもらおうようにしており、迷っている時などは共に服選びをするときもある。また、身だしなみが不十分な時は、さりげなく直すようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理・盛り付け・片付けなど食事に関する一連の流れを利用者さんの能力に応じてお手伝いしてもらっている。また、旬の物は必ず取り入れ、食卓での話題作りへと繋げながら楽しく食事ができる雰囲気づくりを大切にしている。	
			(外部評価) 施設全体で食材をまとめて仕入れるため、メニューも豊富で安価である。メニューには利用者の希望も取り入れている。朝食と夕食は施設の厨房で調理したものを盛り付けて配膳し、昼食は事業所の台所で利用者と一緒に調理している。旬の食材にこだわり食事中の会話でも話題にして、利用者が楽しめる時間となるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の摂取量をチェックシートに記入し確認を行なっている。また、お一人お一人に合わせた食事形態を心掛け、盛り付けを工夫したり、苦手なものに関しては代用品にてその方に合った方法で支援している。入浴後の水分確保にも努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に歯磨きの声かけを行ない、お一人おひとりに応じた声かけや介助を行なっている。また、週一回の義歯消毒をおこない清潔保持・肺炎予防に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表にて確認し、声かけ・誘導をおこない失敗のないように気をつけている。利用者の状態に合わせて尿とり大きさや装着方法を変え、不安や不快を与えないよう考慮している。	
			(外部評価) 利用者の生活を見守りながら排泄パターンを把握し、一人ひとりの状況にあったトイレ誘導をするなど排泄の自立に向けた取り組みをしている。夜間はオムツでの対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事の献立には野菜を多く取り入れたり、水分摂取量にも気をつけている。また、散歩や体操などで身体を動かす機会を適度に設けるなどの工夫をしているが、これらが叶わぬ方においては、下剤にて調整している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 一日おきの入浴を基本とし実施している。入浴を好まない方には時間を置いたり、声掛けする職員が変わってみたい工夫しながら支援している。	
			(外部評価) 1日おきの入浴を基本としている。利用者の希望や好みを把握して、入浴時間やお湯の温度等配慮しながら支援をしている。入浴が苦手な利用者にはタイミングや声かけを工夫している。浴室の段差など安全にも十分注意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 睡眠パターンを記録に残し把握できるようにしている。夜間の睡眠を促すためにも日中の活動を働きかけるように心がけている。寝つきの悪い方においては、時間の許す限り付き添い安心して休むよう声かけをしている。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬一覧表にて個々の服薬状況を把握している。また、薬の説明書にて副作用等を理解し、症状が改善しなければ再度医師に相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ご利用者と共に家事などをする中で、得意・苦手を見極めながら支援している。その方、その時々に合わせて支援をおこなっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ごみ捨て・六地藏参りを兼ねての散歩は日課となっており楽しみの一つとなっている。ドライブを兼ねての買い物にも出かける機会を設けている。また、併設施設の入居者と出かける機会もあり、ご家族の計画で外出していただける事もある。	
			(外部評価) 利用者の希望も取入れながら、年間の行事計画を立てて外出支援を行っている。近隣にある同法人の他施設の行事に参加する機会が多く、外出のよい機会になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 病状的に、ご本人の管理が難しいため基本的には預かりとしているが、買い物の際は可能な限りご自分で支払うことができるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 季節に合わせた挨拶状をお送りしたり、要望に応じて電話の取次ぎもおこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共に生活する中で空調や臭い、音・光などは調整をおこない不快を与えないよう配慮している。また、四季折々の飾り付けをして季節感を取り入れるよう工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居間の窓から山の木々を眺められ、春にはテラスで花見ができ、季節を感じながら生活できている。居間で過ごす時間が多いが、一人ひとり居心地の良いお気に入りの場所がある。テラスやベランダは、日向ぼっこや夕涼みなどゆっくりくつろいで過ごせる場所になっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 皆で過ごせるフロア。一人になれる自室。気の合う利用者と過ごせる場所にと椅子を置き精神的なバランスをたもてるように配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅で使用していたものを持ち込む利用者は少ないが、ご自分やご家族の写真を飾っていただき安心して生活が送れるよう環境づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) ベッドや整理ダンスは備付けで、利用者はテレビや飾り棚、馴染みの小物など思い思いに持ち込んで居心地よく過ごしている。どの居室も整理整頓できており清潔に保たれている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) ご本人が迷って混乱が見られるような時は、メモ書きを残し説明をしたり、自室入り口やトイレなどにはプレートを掲げわかりやすくしている。夜間は照明の明るさに気をつけ必要に応じては福祉用具も利用しながら安全な環境を整えている。</p>	